

下鍵盤の音色群



COMBINATION コンビネーション

さまざまなオルガンサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER COMBI(ロワーコンビネーション)のボタンによって呼びだします。8つのボタンの働きやPRESET(プリセット)の音色は、上鍵盤のコンビネーション音色に準じ、メモリーの操作や、RESPONSE FAST(レスポンスファースト)、TIMBRE VARL(ティンバーバリエーション)の働きも同じです。(7, 8ページを参照してください。)

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)	コンビネーションレバーのうち、LOWER(ロワー)のレバーでセットしている音色が得られます。
MEMORY 1・2・3 (メモリー1・2・3)	ロワーのレバーでつくった音色をメモリーし、必要に応じて取りだすことができます。
PRESET 1 (プリセット1)	チャーチオルガン系のサウンド
PRESET 2 (プリセット2)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 3 (プリセット3)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 4 (プリセット4)	シアターオルガン系のサウンド



ORCHESTRA オーケストラ

ストリングスやブラスなど、複数の楽器で合奏しているようなサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER ORCHES.(ロワーオーケストラ)のボタンで呼びだします。操作方法やTOUCH TONE(タッチトーン)、PRESET VIBRATO(プリセットビブラートの働きは、上鍵盤のオーケストラ音色と同じです。(9ページを参照してください。)



SPECIAL PRESETS

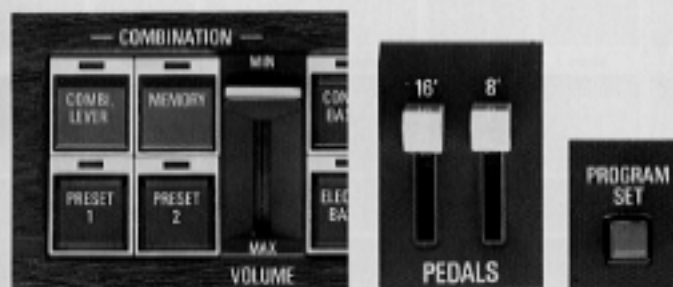
スペシャルプリセット

ピアノやハープシコードなどの楽器音がプリセットされている音色群で、アンサンブルセクションのLOWER SPECIAL(ロワースペシャルプリセット)のボタンによって呼びだします。操作方法やTOUCH TONE(タッチトーン)の働きは、上鍵盤のスペシャルプリセット音色と同じです。(10ページを参照してください。)

CUSTOM VOICES カスタムボイス

アンサンブルセクションのLOWER CUSTOM(ロワーカスタムボイス)のボタンを入れると、アッパー/ロワーカスタムボイス音色が下鍵盤で得られます。なお、下鍵盤で呼びだしているときは、上鍵盤で呼びだすことはできません。(11ページを参照してください。)

ペダル鍵盤の音色群



COMBINATION / コンビネーション

オルガン系のベース音が得られる音色群です。上・下鍵盤のコンビネーション音色の操作とちがひ、アンサンブルセクションのボタンを入れる必要はなく、音色セレクトボタンとボリュームスライダーの操作だけで音をだすことができます。4つのボタンの働きは、上鍵盤のコンビネーション音色に準じており、メモリーの操作も同じです。(7、8 ページを参照してください。)

なお、次に説明するペダルカスタムボイス音色と組み合わせることができますが、コンピネーション音色を単独で使いたい場合は、カスタムボイス音色のボリュームをMIN(最小)にセットしてください。

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)	コンビネーションレバーのうち、PEDALS (ペダル) のレバーでセットしている音色が得られます。
MEMORY (メモリー)	ペダルのレバーでつくった音色をメモリーし、必要に応じて取り出すことができます。
PRESET 1 (プリセット1)	パイプオルガン系の音色
PRESET 2 (プリセット2)	ジャズオルガン系の音色



CUSTOM VOICES / カスタムボイス

コントラバスやエレクトリックベースなど、低音楽器の音色がプリセットされている音色群です。音色セレクトボタンをひとつ選び、ボリュームスライダーを操作するだけで音をだすことができます。

なお、ペダル鍵盤のコンビネーション音色と組み合わせることができますが、カスタムボイス音色を単独で使いたい場合は、コンビネーション音色のボリュームをMIN(最小)にセットしてください。

●BRILLIANCE (ブリリアンス)

青色の感じをコントロールするスライダーです。中央がノーマルな状態で、MELLOW（メロウ）側にスライドさせるほどソフトな感じになり、BRILLIANT（ブリリアント）側にスライドさせるほど輝くような感じになります。お好みに応じてセットしてください。

★ペダルカスタムボイス音色には、あらかじめプリセットビブラートが組み込まれている音色があります。また、自分の好きなようにビブラートのかかり方をセッティングすることができます。(16、17ページを参照してください。)

ソロ鍵盤の音色と効果 (FS-70のみ)



SOLO ソロ音色

ソロ鍵盤からは、リアルで生き生きとした、音質レベルの高い楽器音が得られます。また、タッチトーンなど、専用の各種エフェクトやコントロール類を備えていますから、より変化に富んだ表現ができます。さらに、上鍵盤に移してアンサンブルさせることも可能です。それでは、実際に音をだしてみましょう。

①音色を選ぶ14のボタンのなかから、ひとつを選びます。



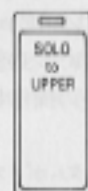
いずれかひとつをONする。

②VOLUME (ボリューム) のスライダーを手前に引きます。

このようにセットしてソロ鍵盤を弾くと、①で選んだ音色が得られます。

★ソロ音色は単音で発音されます。同時に複数の音をおさえた場合は、一番後でおさえた1音が優先的に発音します。また、COUPLER (カブラー) のボタンを使って上鍵盤に移し、上鍵盤の音色群と組み合わせた場合は、最高音1音が優先的に発音します。(ただし、カスタムボイスのみと組み合わせた場合は、後でおさえた1音が優先します。)

●COUPLER SOLO to UPPER (カブラー ソロトウ アッパー)



COUPLER

このボタンを入れると、ソロ音色が上鍵盤に移り、上鍵盤の音色群と組み合わせることができます。このとき、ソロ音色が得られる上鍵盤の音域は、ソロ鍵盤と同じ音域(高音部3オクターブ)になります。

また、カブラーのボタンを入れて上鍵盤に移しているときでも、ソロ鍵盤を弾けばソロ音色をだすことができます。ただし、ソロ鍵盤と上鍵盤を同時におさえた場合は、ソロ鍵盤が優先します。

●DETUNE (デチューン)



DETUNE

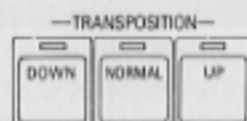
ソロ音色の音程を微妙にコントロールするスライダーです。一番奥のMIN (最小) の位置がソーマルな音程で、MAX (最大) 側にスライドさせるほど音程が高くなります。

他の鍵盤の音より、少し音程を高くすることによって、立体的な効果を生みだすことができますから、お好みに応じてセットしてください。

— TRANSPOSITION —



●TRANSPOSITION (トランスポジション)



これらのボタンを使えば、ソロ音色の音程をオクターブの単位で、上下に切り換えることができます。NORMAL(ノーマル)のボタンが入っていると通常の音程で、DOWN(ダウン)のボタンを入れると1オクターブ低くなり、UP(アップ)のボタンを入れると1オクターブ高くなります。曲型やそれぞれの音色に応じて使い分けてください。

●TOUCH TONE (タッチ トーン)



このボタンを入れると、イニシャルタッチとアフタータッチによって、ソロ音色の音量・音色が微妙にコントロールできます。

イニシャルタッチコントロールは、鍵盤をたたいたときの速さ・強さでコントロールするもので、速く、強くたたいたほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさざまぎに変化します。

アフタータッチコントロールは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけてコントロールするもので、強くおさえつけたほど音量が大きくなり、音色は豊かさと厚みを増します。

なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされており、音域によっても変化する度合は変わります。

●PRESET VIBRATO (プリセット ビブラート)



このボタンを入れると、そのとき選んでいるソロ音色にビブラート効果がかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、ディレイ(ビブラートがかかるのは始めるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、デプス、スピード、ディレイを自分の好きなように変更することもできます。(16, 17ページを参照してください)

●TOUCH VIBRATO (タッチ ビブラート)



プリセットビブラートのかわりに、このボタンを入れると、鍵盤のタッチでビブラートをコントロールできるようになります。これは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけるアフタータッチによってコントロールするもので、強くおさえつけたほどビブラートのデプス(深さ)が深くなります。このとき、ビブラートのスピード(速さ)は一定です。また、タッチによって変化するデプスの度合は、自分の好きなように変更することもできます。(16, 17ページを参照してください)

●BRILLIANCE (ブリリアンス)

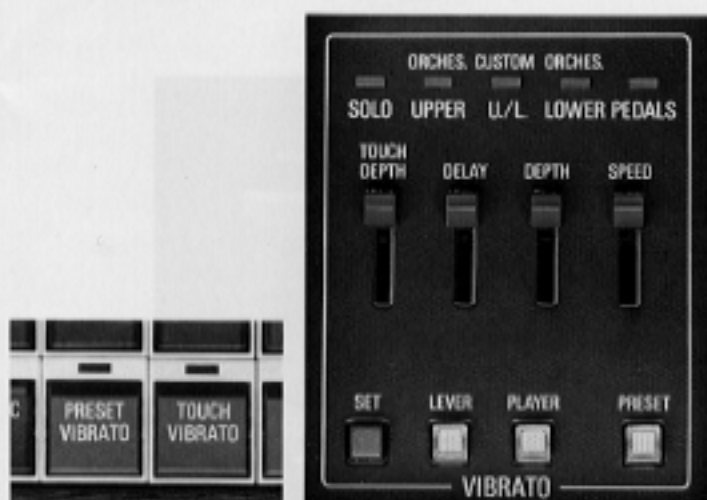


音色の感じが微妙にコントロールできるスライダーです。中央がノーマルな状態で、MELLOW(メロウ)側にスライドさせるほどソフトな感じになり、BRILLIANT(ブリリアント)側にスライドさせるほど輝くような感じになります。お好みに応じてセットしてください。

●SLIDE CONTROL (スライド コントロール)



このスライダーを使うと、ある音から次の音へなめらかに音程が移行するポルタメント効果が得られます。スライダーがMIN(最小)にセットされていると効果はかかりませんが、MAX(最大)側へスライドさせるほど、音程の移行する時間が長くなります。なお、この効果をかけるときは、鍵盤をレガートに弾いてください。



(写真はFS-70です。)

VIBRATO ビブラート

ビブラートには、それぞれの音色にふさわしいようにセットされているプリセットビブラートと、それを自分の好きなように変更するプレイヤービブラートの2種類があります。

●プリセットビブラート

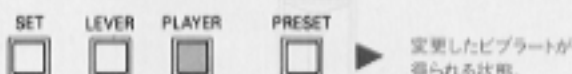
上・下鍵盤のオーケストラ音色、カスタムボイス音色、およびソロ音色では、PRESET VIBRATO (プリセットビブラート) のボタンを入れることで、あらかじめプリセットされているビブラートが個々の音色に対してかかります。(9, 11, 15ページを参照してください。) このプリセットビブラートは、下鍵盤の右のパネルにあるPRESET (プリセット) のボタンを入れているときに得られます。



また、カスタムボイス音色とソロ音色では、タッチビブラートも得られますが、PRESET (プリセット) のボタンを入れているときには、鍵盤タッチによってコントロールできるビブラートの深さは、プリセットされている深さになります。(11, 15ページを参照してください。)

●プレイヤービブラート

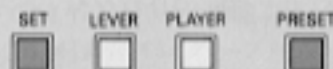
プリセットビブラートとタッチビブラートのかかり方は、自分の好きなように変更し、メモリーしておくことができます。ビブラートの変更とメモリーは、次に説明する操作によって行いますが、まず、プリセットビブラートをすべて記憶させたうえで、変更したい音色だけ呼びだしてください。変更後のビブラートは、PLAYER (プレイヤー) のボタンを入れることで、いつでも得られます。



プレイヤービブラートのセット方法

ビブラートのかかり方は、上・下鍵盤のオーケストラ音色、カスタムボイス音色、およびソロ音色 (FS-70のみ) のひとつひとつについて、別々に変更し、メモリーすることができます。また、ペダル鍵盤のカスタムボイス音色も、ビブラートをメモリーすることができます。

① SET (セット) のボタンを押しながら、PRESET (プリセット) のボタンを押します。

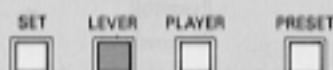


すると、PLAYER (プレイヤー) のボタンが点滅し、プリセットビブラートがすべて一度にメモリーされます。この操作をしておけば、ビブラートを変更しなかった音色についても、PLAYER (プレイヤー) のボタンを入れたままプリセットビブラートが得られるようになります。したがって、プリセットビブラートをかけたい音色から、変更したプレイヤービブラートをかけたい音色に切りかえる場合でも、PRESET (プリセット) と PLAYER (プレイヤー) のボタンをいちいち押し直す必要がありません。

② ビブラートを変更したい音色の属している音色群で、PRESET VIBRATO (プリセットビブラート) のボタンを入れます。



③ LEVER (レバー) のボタンを押します。

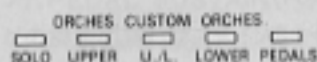


すると、LEVER (レバー) のボタンが点滅をはじめます。これで、ビブラートを変更したい音色を呼びだすことができるようになります。



② ビブラートを変更したい音色のボタンを押します。

ボタンのランプがすでに点灯している場合でも、あらためてボタンを押してください。すると、押した音色が属している音色群のインジケータランプが点灯し、ビブラートの変更とメモリーが可能な状態になったことを示します。なお、このときレバーボタンの点滅は点灯に変わります。

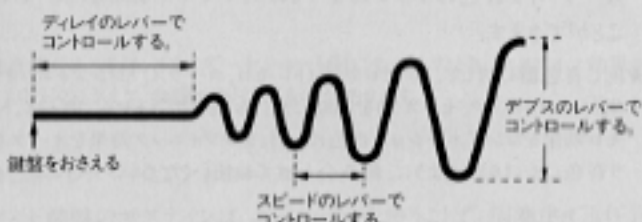


(図はFS-70です。)

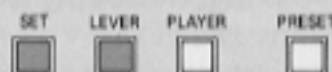
③ ビブラートのかかり方をレバーでセットします。



実際に音をだしながら、ビブラートのかかり方を決めてください。まず、DEPTH(デプス)のレバーで、ビブラートの深さを決めます。レバーを手前に引くほど音程の上下する幅が大きくなります。同様に、SPEED(スピード)のレバーで、ビブラートの速さをコントロールし、DELAY(ディレイ)のレバーで、鍵盤をおさえてからビブラートがかかりはじめるまでの時間をコントロールします。



④ SET(セット)のボタンを押しながら、LEVER(レバー)のボタンを押します。

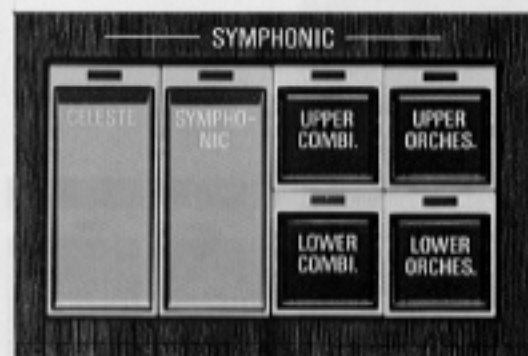


すると、PLAYER(プレイヤー)のボタンが点滅し、変更したビブラートがメモリーされたことを示します。ボタンの点滅は、すぐに点灯に変わり、ビブラートを変更した音色には、プリセットビブラートのかわりにプレイヤービブラートがかかるようになります。

★タッチビブラートのデプスの度合を変更する場合は、TOUCH VIBRATO(タッチビブラート)のボタンを入れ、TOUCH DEPTH(タッチデプス)のレバーを使います。レバーを手前に引くほど、鍵盤のタッチによってコントロールできるビブラートの深さの度合が大きくなります。また、SPEED(スピード)のレバーによって、タッチビブラートの速さも変えることができます。

★ペダル鍵盤のカスタムボイス音色にかけるビブラートも同様にメモリーすることができます。その場合、②の操作は不要です。なお、ペダル鍵盤をおさえ続けただけでレバーを動かしてもビブラートは変化しませんので、レバーでビブラートのかかり方をセットするときは、そのつどペダル鍵盤をおさえ直してください。

★いったんメモリーしたビブラートの情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じ音色に新しいビブラートの情報をメモリーすると、それまで入っていた情報は、自動的にキャンセルされます。



SYMPHONIC シンフォニック

数多くの楽器で合奏しているような多重感をもたせ、音に豊かな広がりを与える効果です。シンフォニックとセレステの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ①SYMPHONIC (シンフォニック) のボタンとCELESTE (セレステ) のボタンのどちらかを選びます。



シンフォニック：豊かなひろがりのある効果が得られます。

セレステ：シンフォニックよりゆったりとしたかかり方の効果が得られます。

- ②効果をかける音色群のボタンを入れます。



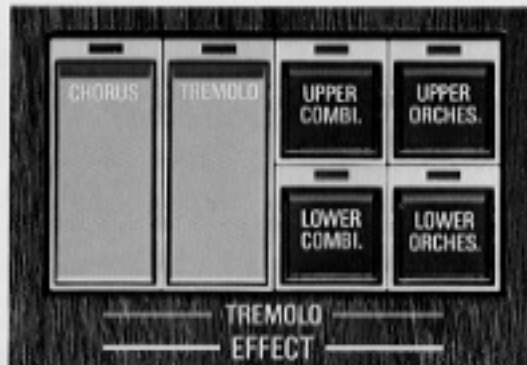
左側が上・下鍵盤のコンビネーション音色、右側が上・下鍵盤のオーケストラ音色のボタンになっており、いくつでも同時にセットすることができます。

以上のようにセットすると、②で選んだ音色群の音に、①で選んだ効果がかかるようになります。

★音色によっては、音色を選んだだけで、シンフォニック効果が自動的にかかるようになるものがあります。あえて効果をかけたくない場合は、ONになっている音色群のボタンを押せばキャンセルできます。

★同じ音色群に、シンフォニック効果(シンフォニック、セレステ)とトレモロ効果(トレモロ、コーラス)を同時にかけることはできません。

★シンフォニックとセレステのボタンは、必ずどちらかがONになっています。



TREMOLO トレモロ

音にうねりをもたせ、うるおいと広がりのある響きにする効果です。トレモロとコーラスの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ①TREMOLO (トレモロ) のボタンとCHORUS (コーラス) のボタンのどちらかを選びます。



トレモロ：音がうねり、独特の広がり感が得られます。

コーラス：トレモロよりゆっくりとうねり、回転しているような感じが得られます。

- ②効果をかける音色群のボタンを入れます。



左側が上・下鍵盤のコンビネーション音色、右側が上・下鍵盤のオーケストラ音色のボタンになっており、いくつでも同時にセットすることができます。

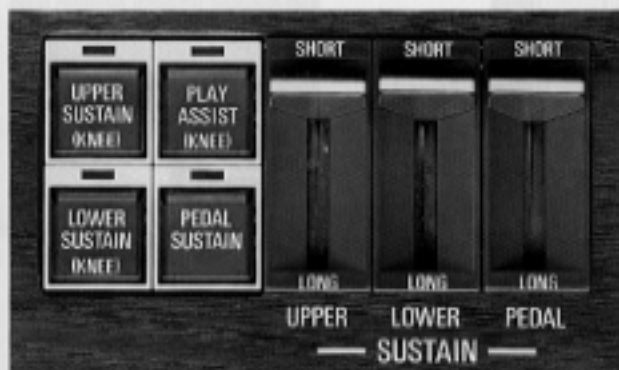
★同じ音色群に対して、トレモロ効果(トレモロ、コーラス)とシンフォニック効果(シンフォニック、セレステ)を同時にかけることはできません。例えば、トレモロ効果をコンビネーション音色にかける、シンフォニック効果をオーケストラ音色にかけるというように、組み合わせお使いください。

●TREMOLO SPEED (トレモロ スピード)

TREMOLO (トレモロ) のボタンを選んでいるときは、上鍵盤と下鍵盤の間のパネルにあるつまみでうねりの速さを微妙にコントロールすることができます。中央の位置が普通の状態ですが、右に回すとうねりが速くなり、左に回すとうねりがゆるやかになります。



TREMOLO SPEED.



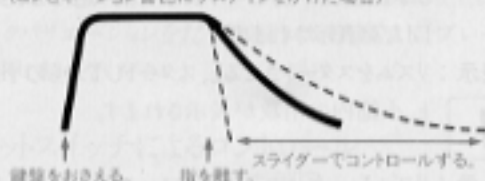
SUSTAIN サステイン

鍵盤から指や足を離した後、音に余韻をもたせ、自然に減衰させる効果です。3つのボタンと3つのスライダーの操作によって、3つの鍵盤の音に、それぞれ効果をかけることができます。また、上・下鍵盤のサステインは、ニューレバーによってコントロールすることができます。

①UPPER SUSTAIN(アッパーサステイン)、LOWER SUSTAIN(ロワーサステイン)、PEDAL SUSTAIN(ペダルサステイン)の3つのボタンで、どの鍵盤の音にサステインをかけるかを決めます。2つまたは3つのボタンを同時にセットすることもできます。なお、サステインがかかるのは、上・下鍵盤のコンビネーション音色、オーケストラ音色、スペシャルプリセット音色、およびペダル鍵盤のコンビネーション音色とカスタムボイス音色です。アッパー/ロワーカスタムボイス音色とソロ音色にはかかりません。

②UPPER(アッパー)、LOWER(ロワー)、PEDAL(ペダル)の3つのスライダーで、サステインの長さをコントロールします。

(コンビネーション音色にサステインをかけた場合)

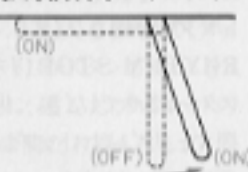


一番上のSHORT(ショート)の位置にセットされているとサステインはかからず、LONG(ロング)側にスライドさせるほどサステインが長くなります。

★音色によっては、スライダーをショート側にセットしたとき、サステイン効果がOFFのときより、余韻が短くなるものがあります。

●ニューレバーコントロール

上・下鍵盤のサステインは、ニューレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、サステインのボタンとスライダーをセットして、ニューレバーを真下に立てておきます。演奏中にサステインをかけたいところへきたら、ニューレバーを右ひざで右に押してください。押しつけている間だけサステインがかかります。



GLIDE グライド

エクスプレッションペダルの左奥にあるフットスイッチを操作することで、上・下鍵盤の音程を、全体に約半音さげる効果です。GLIDE(グライド)のボタンを入れ、鍵盤をおさえたまま、フットスイッチを左に押すことで効果がかけられます。フットスイッチを押しつけている間は、音程が約半音さがり、フットスイッチを離すと、音程はゆっくりともとにもどります。



REVERB リバース

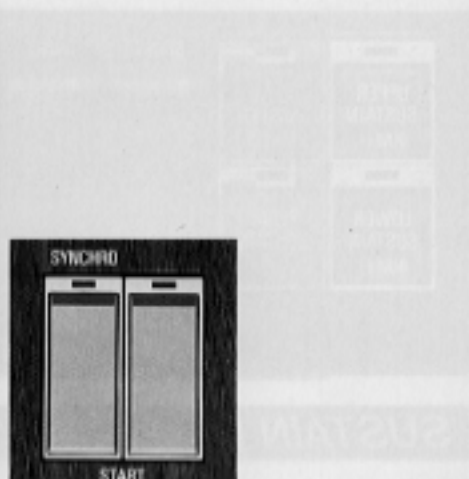
音に美しい残響をつけ、大きなホールで演奏しているような広がりのある響きにする効果です。この効果は、すべての鍵盤の音にかかり、スライダーをMAX(最大)側にスライドさせるほど、長い残響が得られます。

MANUAL BALANCE

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量バランスをコントロールするスライダーです。UPPER(アッパー)側にセットすると下鍵盤の音量が小さくなり、LOWER(ロワー)側にセットすると上鍵盤の音量が小さくなります。

リズムセクション



RHYTHM PATTERN / リズムパターン

オートリズムでは、FWM音源方式の導入によって、実際の打楽器音にきわめて近い、リアルなリズム音が得られます。リズムパターンは16種類あり、それぞれに4つずつのバリエーションパターンが用意されています。それでは実際にリズム音をだしてみましょう。

- ①16のRHYTHM PATTERN(リズムパターン)と、4つのRHYTHM VARIATION(リズムバリエーション)のボタンのなかから、それぞれひとつずつ選びます。

16のリズムパターンに対して、それぞれ4つのバリエーションがありますから、全部で64種類のリズムパターンが選べます。

- ②VOLUME(ボリューム)のスライダーを下にさげます。
③START(スタート)のボタンを押します。

以上の操作をすれば、①で選んだリズムがでます。他のリズムパターンに変えて聴き比べてください。

●START(スタート)・ SYNCHRO START(シンクロススタート)

右側のSTART(スタート)ボタンを入れると、リズムが第1拍目からスタートし、ボタンを切るとリズムはストップします。

STARTのかわりに、SYNCHRO START(シンクロススタート)ボタンを入れると、下鍵盤、またはペダル鍵盤を弾くと同時に、リズムを第1拍目からスタートさせることができます。ボタンを切るとリズムはストップします。

●TEMPO(テンポ)

リズムの速さをコントロールするつまみで、右に回すと速くなり、左に回すとおそくなりますが、セットしたテンポは、デジタルディスプレイに数字で表示されます。

★デジタルディスプレイの下にあるインジケータランプは、セットしたテンポに合わせて点灯します。リズムがスタートしているときは、リズムの小節の1拍目ごとに点灯し、シンクロススタートを入れてから下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえるまでは、4分音符のタイミングで点灯します。

RHYTHM VARIATION / リズムバリエーション

●BALANCE(バランス)

リズム音を構成している打楽器音のバランスをコントロールするスライダーです。中央の位置が普通の状態、下にスライドさせると、リズムをキープしているメインの打楽器音が強調され、上にスライドさせると、それ以外の打楽器音が強調されます。

●デジタルディスプレイ

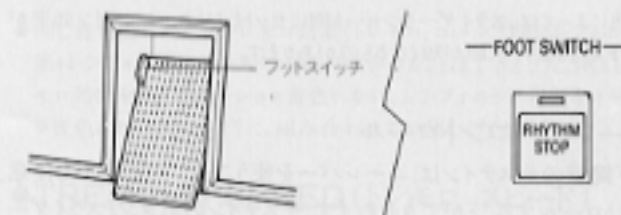
デジタルディスプレイでは、リズムセクションの使い方によって、リズムのテンポなど3種類の表示が得られます。

テンポ表示: リズムをスタートさせる前は、1分間に打つ4分音符の数で、リズムのテンポが表示されます。また、リズムをスタートさせた後にテンポを変えると、変更後のテンポが、バー/ビート表示に割り込んで、少しの間だけ表示されます。

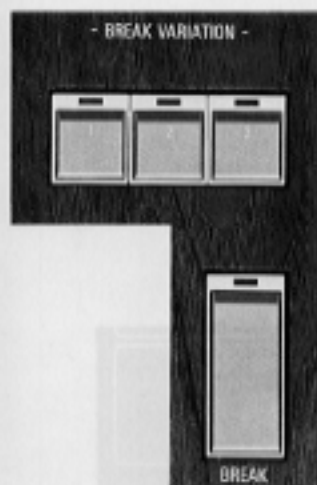
バー/ビート表示: リズムをスタートさせると、スタートしてからの小節数と、小節内の拍数が表示されます。

バー表示: リズムシーケンスプログラマーによって、リズムをメモリーしているときは、小節数だけの表示になります。

●RHYTHM STOP(リズムストップ)



エクスプレッションペダルの左奥にあるフットスイッチを使えば、スタートボタンを押さなくても、リズムをストップさせることができます。まず、RHYTHM STOP(リズムストップ)のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。リズムを止めたいところで、フットスイッチを左に押すと、リズムはストップします。フットスイッチをもう一度押せば、リズムは再度スタートします。



BREAK VARIATION

ブレイクバリエーション

リズムをスタートさせているとき、一時的にリズムフィルインのパターンに切り換える機能です。フレーズの切れ目などに使えば、リズムにアクセントが付き、変化に富んだ演奏ができます。また、イントロとして使うこともできます。それでは、実際に音をだしてみましょう。

- ①リズムパターンを選び、リズムをスタートさせます。
- ②3つのBREAK VARIATION (ブレイクバリエーション) のボタンのなかから、ひとつを選びます。
16のリズムパターンによって、1・2・3のパターンはそれぞれ異なります。したがって、ブレイクバリエーションのパターンは、全部で48種類あります。
- ③必要な時点にきたら、BREAK (ブレイク) のボタンを押します。
ボタンを押した瞬間から、②で選んだブレイクバリエーションのパターンに切り換わり、その小節の終わりまで続きます。次の小節からは、もとのリズムパターンにもどります。2小節以上にわたってブレイクバリエーションをだしたいときは、BREAK (ブレイク) のボタンを押し続けてください。

●フットスイッチによるコントロール



フットスイッチの操作によってもブレイクバリエーションは、コントロールすることができます。フットスイッチのセレクトボタンのうち、BREAK VARI. (ブレイクバリエーション) のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。演奏の途中でフットスイッチを左に押すと、パネル面のBREAK (ブレイク) のボタンを押さなくても、ブレイクバリエーションが得られます。

●イントロのだし方

ブレイクバリエーションでは、イントロをだすこともできます。まず、リズムパターンとブレイクバリエーションのパターンを選び、BREAK (ブレイク) のボタンを押してから、START (スタート) のボタンでリズムをスタートさせてください。リズムがスタートする前に、選んだブレイクバリエーションのパターンが、イントロとして1小節の間だけ得られます。

AUTO VARIATION

オートバリエーション

フレーズの切れ目で、リズムフィルインのパターンに自動的に切り換える機能です。リズムに一定の変化をつけたいときなどに便利です。

- ①リズムパターンとブレイクバリエーションのパターンを選びます。
- ②4BAR (4バー)、8BAR (8バー)、16BAR (16バー) の3つのボタンのなかから、ひとつを選びます。
これらのボタンは、リズムフィルインのパターンを、何小節目ごとに切り換えるかを選ぶものです。4バーは4小節目ごとに、8バーは8小節目ごとに、16バーは16小節目ごとに、それぞれ自動的に切り換わります。
- ③リズムをスタートさせます。
すると、①で選んだブレイクバリエーションのパターンが、②で選んだ小節目ごとに、1小節だけ切り換わります。

★NORMAL (ノーマル) のボタンは、オートバリエーション、およびPROGRAM (プログラム) のボタンをキャンセルする働きをします。



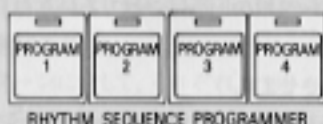
RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER

リズム シーケンス プログラマー

さまざまなリズムパターンの再生順序が、演奏する曲目に合わせて、あらかじめメモリーしておける機能です。この機能を使えば、演奏中にリズムパターンのボタンやブレイクバリエーションのボタンを押し直さなくても、自動的にリズムが切りかわりますから、曲の流れや構成にマッチしたリズムが簡単に得られます。

リズムの再生順序をメモリーする操作

①4つのPROGRAM (プログラム) のボタンのうち、ひとつを入れます。



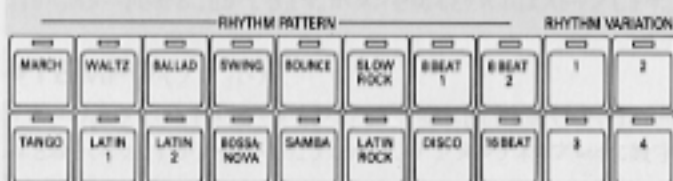
プログラムのボタンは、いわばメモリーバンクにあたり、リズムの再生順序はここに記憶されます。4つのボタンには、それぞれ最長64小節までのメモリーが可能です。

②ON (オン) のボタンを入れます。



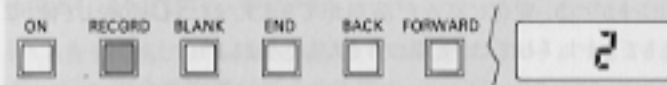
すると、オンのボタンが点灯して、メモリーできる状態になったことを示します。このとき、デジタルディスプレイには「1」が表示されます。

③1小節目に再生するリズムパターンをパネル面でセットします。



16×4の合計64種類のリズムパターンと、16×3の合計48種類のブレイクバリエーションのパターンをメモリーすることができます。なお、このときSTART (スタート) のボタンを入れれば、メモリーするリズムをモニターすることができます。

④RECORD (レコード) のボタンを、メモリーしたい小節の数だけ押します。

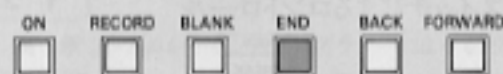


レコードボタンを1回押すごとに、セットしているリズムパターンが1小節ずつメモリーされていきます。このレコードボタンは、デジタルディスプレイの数字を見ながら押してください。レコードボタンを押すたびに、数字がひとつずつ進みます。つまり、この数字は、次にメモリーするのが何小節目かを示すわけです。

⑤リズムパターンを変更して、レコードボタンを押します。

リズムを変えたい小節数をデジタルディスプレイが示したら、リズムパターンを変更し、レコードボタンでメモリーの操作を続けます。リズムの変更は、何回でも行えます。

⑥必要な小節数の分だけメモリーしたら、END (エンド) のボタンを押します。



エンドボタンを押すと、オンのボタンのランプが消え、メモリーが完了したことを示します。メモリーを完了させるのは、ひとつのプログラムボタンにつき64小節以内であれば、何小節目でもかまいません。

★ブレイクバリエーションをメモリーするときは、BREAK (ブレイク) のボタンを押しながら、レコードボタンを押します。

★64小節目までメモリーすると、デジタルディスプレイに「F」(フル)が表示され、それ以上メモリーできないことを示します。

★いったんメモリーした再生順序の情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じプログラムのボタンに新しい情報をメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的にキャンセルされます。

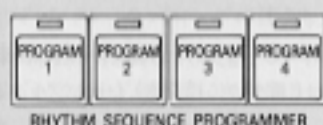


RHYTHMIC CHORD

メモリーしたリズムの再生

メモリーしたリズムは、プログラムボタンを入れるだけで、簡単に再生することができます。

①リズムをメモリーしたPROGRAM(プログラム)ボタンを入れます。



2つ以上のプログラムボタンにメモリーし、再生するときにそれらを同時に入れておけば、連続して再生させることができます。その場合は、小さい番号のプログラムボタンから大きい方へ順番にリズムが再生されます。もし、4つのプログラムボタンのすべてにメモリーしておけば、最長256小節までの連続再生が可能です。



②リズムをスタートさせます。

すると、そのときパネル面でセットしているリズムパターンとは関係なく、メモリーさせたリズムがスタートします。エンドボタンを押してメモリーを完了させたところまできたら、再び1小節目までどり、何度でも再生をくり返します。

★メモリーしたリズムを再生するときでも、リズムのテンポ、ボリューム、バランスなどは、普通のとおり同じようにコントロールできます。

3つのVOLUME(ボリューム)のスライダーを下に下げます。

1つのリズムパターンの再生が完了したら、次のリズムパターンに切り替えます。

●BLANK (ブランク)

BLANK



このボタンを使うと、リズムなしの小節をメモリーすることができます。リズムをメモリーしているとき、デジタルディスプレイがリズムをブランクにした小節数を表示したら、BLANK(ブランク)ボタンを押しながら、レコードボタンを押してください。再生したとき、その小節はリズムが一時的にストップします。

●BACK (バック)・FORWARD (フォワード)

BACK FORWARD



この2つのボタンは、リズムをメモリーしている途中で、すでにメモリーしたリズムを部分的に修正するときに使います。修正するには、まず、デジタルディスプレイの表示を見ながら、BACK(バック)のボタンを押し、修正したい小節まで逆もどりさせてください。次に、新しいリズムパターンをセットし、レコードボタンを押せば、部分的にリズムが修正されます。FORWARD(フォワード)のボタンは、小節を次に進めるときに押してください。

★バックやフォワードのボタンを押すことで、メモリーしている情報が変わったり、消えたりすることはありません。

★オートバリエーションのNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、プログラムボタンはすべてOFFになります。なお、リズムシーケンスプログラマーのONのボタンが入っているときは、ノーマルのボタンを押してもプログラムボタンはOFFになりません。

